

# 令和2年度教育行政執行方針(要約)



教育長 辻 俊行

教育委員会として令和2年度に重点的に取り組む施策について申し述べます。

## 1 変化する社会を生きる力の育成

各学校において、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改善に取り組みます。小学校においては、算数科の非常勤講師を配置するとともに、外国語指導助手や外国語活動サポーターの活用や外国語に係る教員研修の実施、効果的な教材を活用したプログラミング教育に取り組みます。中学校においては、免許外指導の改善を図るため、非常勤講師を配置します。

## 2 地域とともにある学校づくりの推進

不登校対応につきましては、フリースクールなどの民間施設等と情報共有を図り、連携した取り組みを進めるほか、学校と関係機関との連携や、保護者への支援・相談を行うスクールソーシャルワーカーを活用します。さらに、日本語指導を必要とする児童生徒に対して、個別の学習支援や日本語指導を行う支援者を派遣します。

## 3 函館への愛着や誇りと未来へ飛躍する力の育成

市立函館高等学校につきましては、本市初の義務教育学校となる戸井学園の令和3年度の開設に向けた増築工事などに着手するほか、施設の改修や修繕等による学校環境の充実に努めます。

## 4 生きがいを創り出す生涯学習の推進

さらに、市立函館高等学校の生徒を対象とした海外留学事業を実施します。

4月オープンした亀田交流プラザでは、幅広い世代の市民に生涯にわたる学習活動や多様な交流の場を提供します。

## 5 心の豊かさを育む文化芸術の振興

函館市青少年芸術教育奨励事業や文化芸術アウトリーチ事業を実施するとともに、はこだて国際民俗芸術祭などの市民の自主的な文化活動を支援するほか、障がいのある方とつくる市民ミュージカルを上演するなど、市民文化祭の充実を図ります。

## 6 健やかな心身を育むスポーツの振興

本館および大谷派本願寺函館別院の保存修理事業の費用を助成します。

また、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録に向け、南茅部地域での縄文フェスタや博物館での企画展の開催などにより、縄文遺跡群の価値や魅力を積極的に発信し、市民の関心を高めます。